

## 第2章 傷病者対応訓練

### 2.1 傷病者対応訓練の目的

傷病者対応訓練は、医療従事者がいない状況において発災直後からの建物内で発生した傷病者への対応を目的として実施された。

### 2.2 傷病者対応訓練の概要

傷病者対応訓練では、超高層オフィスビルのテナント事業所内での傷病者の発生と発災直後の医療従事者がいない状況を想定し、自衛消防組織の編成、応急救護およびビル内での情報共有を行った。表 2-1 に訓練の流れ、図 2-1 に訓練の組織編成、図 2-2 に訓練会場のレイアウトを示す。本訓練は、工学院大学新宿キャンパス高層棟の 1 1 階を会場として周辺事業所に勤める 2 6 名が参加して行われた。

10名の傷病者役（重症者2名、中等症者3名、軽症者5名）を設定し、訓練開始後、自衛消防隊長およびフロア地区隊長のブリーフィングにより組織編成と役割の確認等を行い、テナントを想定した部屋でのテナント地区隊長・補佐と2人1組の応急救護班（5班）による応急手当、傷病者観察および担架搬送、さらにフロア地区隊長とフロア情報連絡班による傷病者情報の集計および1階防災センターへの伝達等を行った。傷病者観察には、平成22年度および23年度の共助の訓練において使用したものを改良した、図 2-3 に示す傷病者観察記録シートを用いた。さらに傷病者情報の集計表を作成し、傷病者観察記録シートを元に歩行可否別の傷病者数を日時と併せてフロアで集計し、それを防災センターで集約することで建物全体の傷病者発生状況を確認した。担架搬送は、歩けない傷病者を乗せた水平搬送の他、重さ 65kg のダミー人形に乗せ換え下階までの垂直搬送も行った。訓練では1つの教室をテナントに見立て、家具等を散乱させて被災後の室内状況を再現した。写真 2-1～2-6 に主な訓練状況を示す。

表 2-1 傷病者対応訓練の流れ

時間	傷病者対応訓練
12:30	参加者集合(傷病者役)
12:30～13:00	傷病者ムラージュ、演技指導
13:00	参加者集合(傷病者役以外)
13:00～13:30	訓練内容の確認
13:30	訓練開始(発災直後)
13:30～13:50	全体ブリーフィング(状況周知、役割・配置の決定など)
13:50～14:45	ブリーフィング、救護活動、搬送、情報集約・伝達
14:45	終了
14:45～16:00	共助訓練への参加または見学
16:00	講評会場へ移動
16:15～17:00	訓練の講評・アンケート記入
17:00	訓練終了・解散

※傷病者ムラージュ:傷病者役の方に施すケガの演出

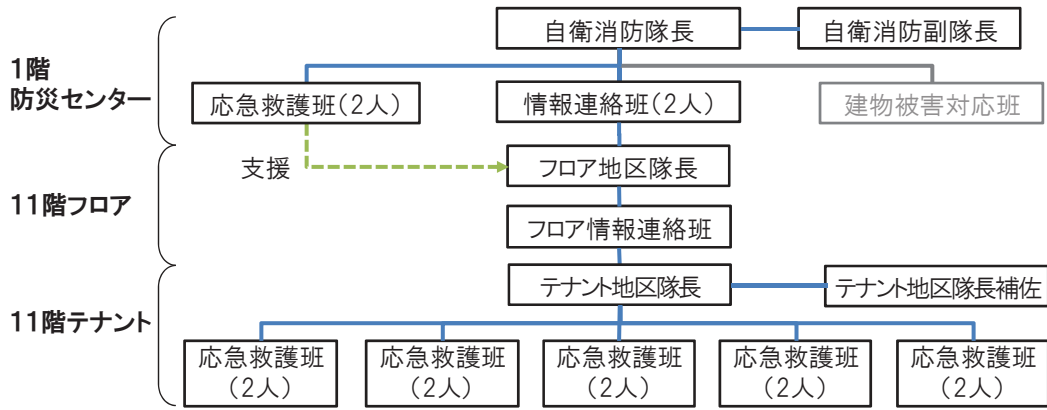


図 2-1 傷病者対応訓練の組織編成

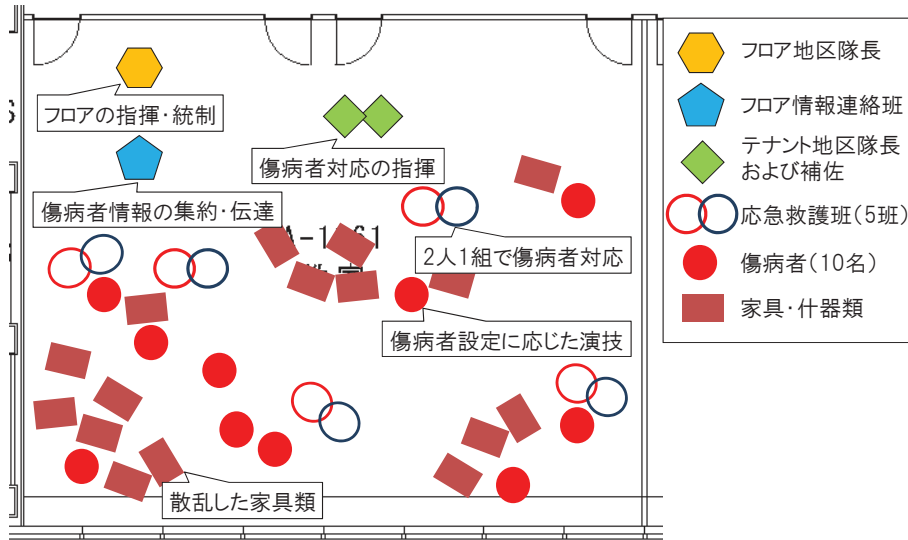


図 2-2 傷病者対応訓練会場レイアウト

新信販地区域防災対策協議会 平成24年度西口地域訓練  
傷病者観察記録シート

No. \_\_\_\_\_

① 記入場所 \_\_\_\_\_ ② 記入日時 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分 \_\_\_\_\_ 秒

③ 記入者氏名 \_\_\_\_\_ ④ 傷病者氏名 \_\_\_\_\_ ⑤ 年齢・性別 \_\_\_\_\_ ⑥ 住所・電話 \_\_\_\_\_

⑦ 意識の有無  なし  あり

⑧ 歩行の可否  歩けない  歩ける

⑨ 負傷箇所 (○をつける)

⑩ 負傷状況・観察内容

⑪ 負傷後の時間  01時間未満  01～2時間  2時間以上  不明

⑫ 負傷した場所  あり (病名: \_\_\_\_\_)  なし  不明

⑬ 過去の病気  あり (病名: \_\_\_\_\_)  なし  不明

図 2-3 訓練で使用した傷病者観察記録シート



写真 2-1 テナント地区隊長および補佐による  
救護活動開始前のブリーフィング



写真 2-2 応急救護班による傷病者の応急手当  
および観察記録



写真 2-3 フロア地区隊長およびフロア情報連  
絡班による 11階の傷病者情報の集約



写真 2-4 応急救護班による傷病者の歩行介助



写真 2-5 応急救護班による傷病者の担架搬送  
(フロア内)



写真 2-6 応急救護班によるダミー一人形を用い  
た担架搬送 (階段室)

## 2.3 訓練における応急救護活動の評価結果

訓練参加者の応急救護活動の評価を目的とし、訓練における自衛消防組織の役割ごとに活動内容の評価を行った。評価は最も良い場合を「5」、最も悪い場合を「1」とする5段階評価とした。評価結果の概要を表 2-2 に示す。総評として、事前に実施した講習の効果が大きく、特にリーダー養成講習受講者の活動が評価された。一方、現場着手時の状況と環境確認要領について、実施者側全員の理解が必要であることが指摘された。

表 2-2 傷病者対応訓練における応急救護活動の評価結果  
(評価者：東京消防庁新宿消防署 安田不二夫氏)

自衛消防組織の役割名	評価項目	評価結果
フロア地区隊長	フロアの指揮統制	5
フロア情報連絡班	情報連絡	4
テナント地区隊長	フロア地区隊長の指示に従った行動	4
テナント地区隊長補佐	応急救護班の指揮統制	4
応急救護班	傷病者に対する聞き取り・傷病観察	3
	傷病者観察記録シートの記入	2
	応急手当	3
	傷病者に対する声かけ・励まし	4
	傷病者の搬送	4
	テナント地区隊長の指示に従った行動	4
	バディシステムによる応急救護活動	3

## 2.4 参加者アンケート調査結果

訓練参加者の満足度や達成度等の評価および今後の課題やテーマ等を抽出することを目的とし、訓練当日の講評会においてアンケート調査を行った。回答方法は、選択肢方式および記述方式を併用し、選択肢については各問に対する肯定表現と否定表現に中間表現および中立表現を加えた5択方式とした。

事業所の防災担当者など、災害対応従事者5名を含む10名の訓練参加者より回答が得られ、回収率は38.5%であった。アンケート調査結果の概要を以下に示す。また、選択肢方式の回答を図 2-4 に示す。

- ・「参加して良かった」が10名。「訓練の円滑な実施ができた」が4名、「できなかった」が3名。「今後改善すべき点があった」が4名、「どちらかというにあった」が4名。
- ・主な改善点：啓発活動や事前講習等の充実（2名）、業務引継ぎまで含めた具体的な訓練の必要性（2名）、応急救護班の編成（2名）、会場・備品の不備（2名）、傷病者待機時間の工夫（1名）
- ・その他意見：「どう対処して良いか解らなかった」、「状況の把握は困難であった（傷病者の数の把握等）」、など

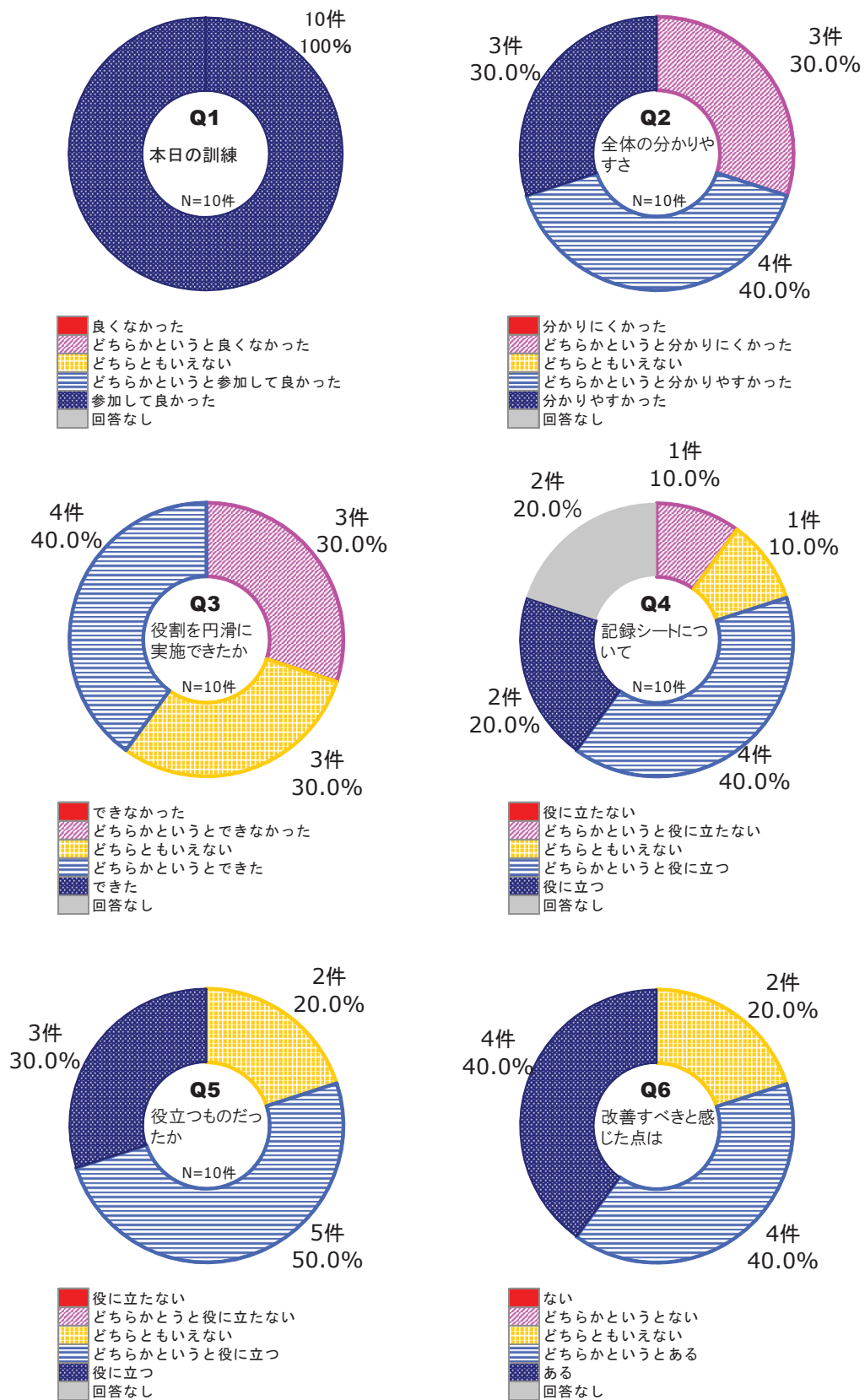


図 2-4 傷病者対応訓練参加者アンケート調査結果